

一 資 料 一

兵庫県内介護保険施設への台湾台中市看護協会（護理師護士公會）からの視察 ー国際交流報告ー

森崎 直子¹⁾・蔡 小瑛²⁾

キーワード：介護保険施設、台湾、看護協会、国際交流

著者である本学教員蔡小瑛の許に出身校である中山醫學大学^{注1)} 郭碧照准教授兼学院院長・護理学系研究所^{注2)} 所長より日本の介護保険施設への、視察依頼が届いた。2009年11月、国際交流の一環として兵庫県内で視察が実現し、台湾台中市看護協会（護理師護士公會）^{注3)} より国立臺中護理專科學校校長周守民教授ら管理職26名の一団（代表：靳曾珍麗董事長）が来日した。一団との交流に同行した様子を報告する。

1. 交流内容の概要

訪問当日の11月6日は天候に恵まれ、秋晴れの1日であった。9時にホテルオークラ神戸に集合し、貸切バスにて訪問施設が集合している西宮市へ向かった。訪問施設は医療法人協和会（木曾賢造理事長）が運営する西宮エリアにある4施設で、いずれも海に面した美しい立地にあった。

訪問施設の1つである医療法人協和会協和マリナホスピタルに到着後、施設内会議室にて医療法人協和会萩原峰乃理事兼総括部長、および兵庫県看護協会大森綾子会



写真2：大森会長からの説明の様子



写真3：説明を受ける一団の様子



写真1：大森会長(左)と靳會会長(右)との握手の様子

長より歓迎の挨拶がなされた（写真1）。その後、大森綾子会長より兵庫県看護協会の活動内容が紹介された（写真2、3）。当大学でも開催されている「まちの保健室」や新型インフルエンザ発生時の電話相談ボランティア等が紹介された。次いで医療法人協和会協和マリナホスピタル島末喜美子看護部長らより、我が国の医療介護制度および施設の概要について説明がなされた。台湾看護協会の一団は熱心に説明を聞きながらメモを取っていた。その後のディスカッションは時間をオーバーする盛況ぶりであった。

萩原峰乃理事兼総括部長の主催で、施設に隣接する

1) Naoko MORISAKI
関西福祉大学 看護学部
2) Syouei SAI
関西福祉大学 看護学部



写真4：昼食会の様子



写真5：施設内見学の様子（浴室）



写真6：施設内見学の様子

ヨットハーバーにて昼食会が和やかに開催された。ステーキがメインの美味しい料理に皆大満足の様子であった。(写真4)

午後より医療法人協和会協和マリナホスピタル、介護老人保健施設ウエルハウス西宮、特別養護老人ホームウエルライフ西宮、介護付き有料老人ホームアクアマリン西宮浜への施設見学が2グループに分かれてなされた(写真5、6)。それぞれの施設で職員からの丁寧な説明がなされた。施設内では、さまざまな箇所の写真を撮る一団の姿が多くみられた。施設入所者の中には台湾に住

んだ経験のある方もおられ、言葉を交わす場面もあった。

最後に台湾看護協会一団より訪問施設職員等への感謝の記念品授与がなされ(写真7)、全員で記念撮影が行われた(写真8)。

2. 視察施設の概要

医療法人協和会は兵庫県および大阪府で16の事業所(6病院、4介護老人保健施設、4在宅事業所、2診療所)を運営している。今回訪問した西宮エリアの他、川西エリア、豊中エリア、吹田エリアにそれぞれ拠点が置かれている。西宮エリアには、下記訪問施設の他、協和マリナ訪問看護ステーションと西宮ヘルプステーションが併設されている。

1) 協和マリナホスピタル

1999年に開設された兵庫県西宮市西宮浜4-15-1を所在地とする病床数100床の慢性期を中心とした病院である。診療科は内科、外科、整形外科、小児科、リハビリテーション科、消化器科、放射線科、循環器科である。職員数は112人で看護配置は一般病棟が10対1、回復期リハビリテーション病棟が15対1であった。看護師にとっ



写真7：新會会長(左から3番目)より荻原総括部長(左から2番目)、末島看護部長(左)への記念品授与の様子



写真8：記念撮影

て働きがいのある職場づくりを目指しており、看護師研修に力をいれてある様子がうかがえた。

2) 介護老人保健施設ウエルハウス西宮

1999年に開設された兵庫県西宮市中央町15-25を所在地とする入所者数150名、ショートステイ者数6名、通所者数50名の介護老人保健施設である。施設職員数は105名で誕生日会やお茶会、お花見や運動会といった入所者が楽しめるような行事が大変充実している施設であった。

3) 特別養護老人ホームウエルライフ西宮

2004年に開設された兵庫県西宮市西宮浜4-15-3を所在地とする入所者数70名の特別養護老人ホームである。職員数は40名で、元ホテルシェフによる料理が好評な施設であった。現在の施設申込み待機者数は650名という大変人気の高い施設であった。

4) 介護付き有料老人ホームアクアマリーン西宮浜

2007年に開設された兵庫県西宮市西宮浜4-15-2を所在地とする個室80室、2人室10室の介護付き有料老人ホームである。施設の基本料金(家賃、食費、管理費)は個室が234,050円、2人室が408,100円であった(視察時点)。個室は約20m²の広さがあり、室内にはトイレや洗面設備、介護用電動ベッドや収納が設置されておりプライベートな空間が保てる作りとなっていた。室外のスペースとして一般浴室、機械浴室、洗濯室、食堂、理容室などが設けてあった。

3. 台湾視察団の質問と感想より

1) 介護保険制度について

視察団からの質問で最も多かった内容は介護保険制度に関することであった。台湾の医療保険は日本と同じ国民皆保険制度をとっているが、介護保険については現在までにそれに値する制度がなく、深く興味を持ったものとする。

両国の文化を比較したところ、従来、儒教倫理の深い影響を受け家族関係を重んじてきた台湾では現在でも親孝行を美德としている。さらに介護を必要とする親を他所に委ねるより家で身内が世話をを行った方が望ましいと考えられている。そのため、台湾ではヘルパーを家に住み込ませ介護を行う状況が多く、家庭で見受けられてきた。しかし、ヘルパーの仕事は重労働であり長続きせず、ここ30年は台湾出身のヘルパーより

外国人労働者であるフィリピン出身のヘルパーが急増しているという現状もある。とはいえ、格差社会が広がりつつある台湾ではヘルパーを雇える家庭は徐々に限られてきており、同時に高齢化の影響も受け、日本における介護保険制度の様な社会全体で介護を支える制度の確立が急務となっているのである。

2) 介護保険施設について

日本の介護保険施設を視察した一団は日本との文化の差を感じ、また、施設の多くの箇所で感銘を受けている様子であった。これまでの台湾の医療・看護界は欧米を見習おうとする習慣があり、近隣にある日本の状況については関心が薄く、日本の医療や看護の現状が理解されていなかったのである。

文化の差を強く感じていた箇所の1つは、施設内にある共同浴場であった。台湾では他人と共に入浴するという習慣がなく、共同浴場という場自体、存在していないのである。また、入所者の部屋に設置されていた引き戸に対しても大変新鮮に感じている様子であった。引き戸を設置している主な理由が震災予防であるとの説明を受け、日本人の即効性のある実践力を実感している様子だった。

世話人：萩原峰乃(医療法人協和会理事兼総括部長)、島末美子(医療法人協和会協和マリナホスピタル看護部長)、医療法人協和会職員多数、大森綾子(兵庫県看護協会会長)、河村圭子(梅花女子大学看護学部開設準備室教授)、段亜梅(兵庫大学健康科学部講師)、蔡小瑛(関西福祉大学看護学部准教授)、森崎直子(関西福祉大学看護学部講師)

写真提供：村田純一(医療法人協和会総務部)

注1)：中山医学大学は、台湾台中市に位置する私立医科大学で、医学部、看護学部など6学部を開講しており、東京医科大学の姉妹校でもある。

注2)：護理学系研究所とは、日本の看護系大学院研究科にあたるものである。

注3)：護理師護士公會とは、日本の看護協会にあたるものである。